

小松篤史氏による「指導検査士に必要な産婦人科の知識」(超音波医学 2017;44:423-434) に関して

従来の超音波専門医は総合領域を除いて領域毎の性格が強いものでしたが、本来、超音波専門医は超音波医学全般の素養を持ち、循環器病学や消化器病学などの各専門分野の知識だけでなく、工学や多領域に亘る知識が広く要求されるという、他の専門医にはない特色を持っています。このため、こうした観点も含めて最近「超音波専門医研修カリキュラム」が改訂され「同(第2版・第3版¹⁾)」として発刊されました。さらにこれに付随して、超音波専門医認定試験問題も必須項目である「医用超音波工学の基礎」と「臨床超音波医学の基礎」を合わせた比率が第24回より55%となり、選択項目「専門医の各領域」の45%を上回っています。この観点からも、本論文をはじめとする教育セッションの「総説論文」は、超音波専門医が各自の専門領域以外の超音波診療を学ぶ好適な企画であると高く評価しています。

さて、本論文を読み進めると、専門的内容が分かりやすく書かれている一方で、医用超音波用語に関して強い違和感を覚えましたので、お尋ねします。一般的に、「Letter to the editor」は該当論文の著者が回答しますが、今回は査読に関わる問題点なので、編集委員会(ひいては、用語・診断基準委員会)に回答を求めたいと存じます。

私を取り上げたいのは、医用超音波用語「辺縁²⁾」の誤用です。拙著論文³⁾でこの誤用に関わる問題点を詳述しており、次に示すように本論文で多くの誤用を認めるのはとても残念なことです。P 425 左カラム 27 行目・同右カラム 9 行目・同右カラム 14 行目の「辺縁」は誤用であり、いずれも「輪郭」が正しいと考えます。また、肝下縁の「縁取り」を示すのは「肝辺縁」より「肝縁」の方が適切である³⁾ように、P 433 左カラム 12 行目・同右カラム 3 行目の「胎盤辺縁」は、「胎盤縁」の方が適切でしょう。これらは、査読の段階で修正が可能のはずです。ちなみに、P 428 の Table 1⁴⁾の解説の「辺縁・輪郭」も混乱を招きやすく、いずれも「輪郭」の方が適切と考えます。

本論文のような教育的企画における誤りは、その影響が甚大です。誤りの連鎖を避けねばなりません。今後、こうした誤りの再発を予防するために査読に際してどの

ような対策が考えられるでしょうか。また、「卵巣腫瘍のエコーパターン分類⁴⁾」のように過去の分類・基準に関して誤りが後日判明した場合、部分的に訂正するにはどのような方法が考えられるでしょうか。

文 献

- 1) 公益社団法人日本超音波医学会 教育委員会. 超音波専門医研修カリキュラム (第3版). <https://www.jsum.or.jp/committee/education/reference.html>
- 2) 公益社団法人日本超音波医学会 用語・診断基準委員会. 医用超音波用語集. <https://www.jsum.or.jp/terminologies>
- 3) 藤本武利. 超音波用語と所見: 分かりやすい科学的表現. 超音波医学. 2016;43:33-8.
- 4) 岡井 崇. 卵巣腫瘍のエコーパターン分類の公示について. 超音波医学. 2000;27:912-914. <https://www.jsum.or.jp/committee/diagnostic/pdf/ranso.pdf>

平塚胃腸病院外科

藤本 武利

Received on October 12, 2017; Accepted on November 30, 2017

藤本 武利氏からの質問への回答

藤本氏よりご指摘いただきました点につきまして、回答させていただきます。私が本文中で使用した「辺縁」という用語は、正に藤本氏のご指摘の通り「輪郭」の意味で使用しておりました。医用超音波用語集には、「辺縁」は「腫瘍や臓器の境界の内側部分」とあり、「輪郭」は「臓器や腫瘍などの境界を連ねる線」とあります。卵巣腫瘍の超音波所見で重要となるのは「辺縁」よりもむしろ「輪郭」であると考えられます。ただし、「卵巣腫瘍のエコーパターン分類」の「追記が望ましい項目」にもあります通り、輪郭のみならず辺縁の所見も追記すべきとあります。したがって、「腫瘍の辺縁(整/不整)」を「腫瘍の輪郭(整/不整)・辺縁」と「輪郭」という用語を追記・修正させていただきたいと考えております。教育的な報告の中で医用超音波用語に誤解を招く表現があつてはならないことであり、これはひとえに私の知識不足によるミスであり、お詫びして訂正させていただきます。

「胎盤辺縁」に関するご指摘ですが、本来の「辺縁」は「(中心部に対して)その周りにある部分」とありますので、正確には「胎盤辺縁」ではなく「胎盤下縁」という表現の方がより正確と考えます。しかし、日本産科